

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

**特許第5134118号
(P5134118)**

(45) 発行日 平成25年1月30日(2013.1.30)

(24) 登録日 平成24年11月16日(2012.11.16)

(51) Int.Cl. F 1
A 6 1 B 8/00 (2006.01) A 6 1 B 8/00

請求項の数 4 (全 9 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2011-176944 (P2011-176944) (22) 出願日 平成23年8月12日(2011.8.12) (62) 分割の表示 特願2006-248839 (P2006-248839) の分割 原出願日 平成18年9月14日(2006.9.14) (65) 公開番号 特開2011-245343 (P2011-245343A) (43) 公開日 平成23年12月8日(2011.12.8) 審査請求日 平成23年8月24日(2011.8.24)</p>	<p>(73) 特許権者 300019238 ジーイー・メディカル・システムズ・グロ ーバル・テクノロジー・カンパニー・エル エルシー アメリカ合衆国・ウィスコンシン州・53 188・ワウケシャ・ノース・グランドヴ ュー・ブルバード・ダブリュー・710 ・3000 (74) 代理人 100095511 弁理士 有近 紳志郎 (72) 発明者 加藤 生 東京都日野市旭が丘四丁目7番地の127 GEヘルスケア・ジャパン株式会社内 審査官 富永 昌彦</p>
---	---

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 超音波診断装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

室内の照明状況を検出するための照明状況検出手段と、操作者が超音波画像を保存した時の照明状況を前記超音波画像に関連付けて保存する照明情報保存手段と、保存していた超音波画像を操作者が呼び出した時に該超音波画像に関連付けて保存していた照明状況情報を読み出して操作者に報知する照明情報報知手段とを具備したことを特徴とする超音波診断装置。

【請求項2】

室内の照明状況を検出するための照明状況検出手段と、操作者が超音波画像を保存した時の照明状況情報および予め設定されていた基準照明情報を前記超音波画像に関連付けて保存する照明情報保存手段と、保存していた超音波画像を操作者が呼び出した時に該超音波画像に関連付けて保存していた照明状況情報および基準照明情報を読み出して操作者に報知する照明情報報知手段とを具備したことを特徴とする超音波診断装置。

【請求項3】

請求項1または請求項2に記載の超音波診断装置において、現在の照明状況を操作者に報知する照明状況報知手段を具備したことを特徴とする超音波診断装置。

【請求項4】

請求項1から請求項3のいずれかに記載の超音波診断装置において、前記照明状況が、照度および色温度の少なくとも一方であることを特徴とする超音波診断装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、超音波診断装置に関し、さらに詳しくは、適正な照明状況の下で超音波診断装置を使用できるようにした超音波診断装置に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、超音波診断装置に照明手段（卓上ランプ）を設け、その照明手段の動作を室内の明るさに応じて制御する超音波診断装置が知られている（例えば、特許文献1参照。）。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0003】

【特許文献1】特開2006-20777号公報（[0034][0038]）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記従来の超音波診断装置では、室内の明るさに応じて、超音波診断装置に設けた照明手段を制御している。

しかし、室内が暗すぎる場合に自動的に明るくすることは出来るが、室内が明るすぎる場合に自動的に暗くすることは出来ない。このため、必ずしも操作者が適正な明るさの下で超音波診断装置を使用できるとは限らない問題点がある。

20

そこで、本発明の目的は、適正な照明状況の下で超音波診断装置を使用できるようにした超音波診断装置を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

第1の観点では、本発明は、室内の照明状況を検出するための照明状況検出手段と、操作者が超音波画像を保存した時の照明状況を前記超音波画像に関連付けて保存する照明情報保存手段と、保存していた超音波画像を操作者が呼び出した時に該超音波画像に関連付けて保存していた照明状況情報を読み出して操作者に報知する照明情報報知手段とを具備したことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第1の観点による超音波診断装置では、超音波画像を保存した者が該画像を見ていたときの照明状況を知ることが出来る。

30

【0006】

第2の観点では、本発明は、室内の照明状況を検出するための照明状況検出手段と、操作者が超音波画像を保存した時の照明状況情報および予め設定されていた基準照明情報を前記超音波画像に関連付けて保存する照明情報保存手段と、保存していた超音波画像を操作者が呼び出した時に該超音波画像に関連付けて保存していた照明状況情報および基準照明情報を読み出して操作者に報知する照明情報報知手段とを具備したことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第2の観点による超音波診断装置では、超音波画像を保存した者が該画像を見ていたときの照明状況または一般的に適正と考えられる照明状況を知ることが出来る。

40

【0007】

第3の観点では、本発明は、前記第1または前記第3の観点による超音波診断装置において、現在の照明状況を操作者に報知する照明状況報知手段を具備したことを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第3の観点による超音波診断装置では、現在の照明状況を知ることが出来る。

【0008】

第4の観点では、本発明は、第1から第3のいずれかの観点による超音波診断装置において、前記照明状況が、照度および色温度の少なくとも一方であることを特徴とする超音波診断装置を提供する。

上記第4の観点による超音波診断装置では、照明の明るさや色温度を適正にすることが

50

出来る。

【発明の効果】

【0009】

本発明の超音波診断装置によれば、適正な照明状況の下で超音波診断装置を使用できるようになる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】実施例1にかかる超音波診断装置の設置状態を示す説明図である。

【図2】実施例1にかかる超音波診断装置の構成を示すブロック図である。

【図3】実施例1にかかる超音波診断装置による照明制御処理を示すフロー図である。

10

【図4】実施例3にかかる超音波診断装置の設置状態を示す説明図である。

【図5】実施例3にかかる超音波診断装置の構成を示すブロック図である。

【図6】実施例3にかかる超音波診断装置による照明制御処理を示すフロー図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、図に示す実施の形態により本発明をさらに詳細に説明する。なお、これにより本発明が限定されるものではない。

【実施例1】

【0012】

図1は、実施例1にかかる超音波診断装置100とそれが設置された室内を示す説明図である。

20

超音波診断装置100は、室内の照明状況を検出するための光センサ8と、天井に設置された照明装置Lの赤外線リモコンRから制御信号を学習しうる学習型赤外線リモコン761と、LCDやCRTの如きモニタ41とを具備している。

【0013】

図2は、超音波診断装置100の構成を示すブロック図である。

超音波診断装置100は、超音波探触子1と、超音波探触子1を駆動して被検体内を超音波ビームでスキャンする送受信部2と、超音波エコーを基に超音波画像を生成する画像生成部3と、超音波画像やメッセージをモニタ41に表示する画像表示部4と、操作者が指示やデータを与えるための操作部5と、超音波画像や照明状況等を記録する記録部6と、制御部7と、光センサ8と、学習型赤外線リモコン761とを具備している。

30

【0014】

制御部7は、室内の照明状況を光センサ8により検出する照明状況検出部71と、操作者が超音波画像を記録部6に保存した時の照明状況情報および予め設定されていた基準照明情報を当該超音波画像に関連付けて記録部6に保存する照明情報保存部72と、記録部6に保存していた超音波画像を操作者が呼び出した時に該超音波画像に関連付けて保存していた照明状況情報および基準照明情報を記録部6から読み出す照明情報読出部73と、予め設定されていた基準照明情報または記録部6から読み出した照明状況情報または記録部6から読み出した基準照明情報のいずれかに基づいて現在の照明状況が適正か否かを判定する照明状況判定部74と、現在の照明状況および予め設定されていた基準照明情報および記録部6から読み出した照明状況情報および記録部6から読み出した基準照明情報および照明状況判定部74で判定した結果を操作者に報知する照明情報報知部75と、照明状況判定部74で判定した結果に応じて学習型赤外線リモコン761を駆動し照明装置Lを制御する照明制御部76とを含んでいる。

40

【0015】

図3は、制御部7による照明制御処理を示すフロー図である。この照明制御処理は、操作者の指示により起動される。

ステップP1では、室内の現在の照明状況を光センサ8により検出する。

ステップP2では、種々の画像表示条件に対応して予め設定してある基準照明情報を検索し、現在の画像表示条件に対応する基準照明情報を取り出す。

50

ステップ P 3 では、記録部 6 に保存してある超音波画像を読み出して表示する動作中ならステップ P 4 へ進み、そうでないならステップ P 5 へ進む。例えばリアルタイムスキャン中ならステップ P 4 へ進む。

ステップ P 4 では、記録部 6 から読み出した超音波画像に関連付けられた照明状況情報が記録部 6 に保存されていないならステップ P 5 へ進み、保存されているならステップ P 7 へ進む。例えば、超音波画像に関連付けて照明状況情報を保存する機能を有さない超音波診断装置で超音波画像を保存したメディアを記録部 6 にセットして超音波画像を読み出した場合はステップ P 5 へ進む。

【 0 0 1 6 】

ステップ P 5 では、ステップ P 1 で検出した現在の照明状況とステップ P 2 で取り出した基準照明情報とを比較し、現在の照明状況が適正か否かを判定する。

ステップ P 6 では、ステップ P 1 で検出した現在の照明状況と、ステップ P 2 で取り出した基準照明情報と、判定結果とを操作者に報知する。現在の照明状況および基準照明情報の報知は、例えば照度および / または色温度をモニタ 4 1 に表示する。判定結果の報知は、例えば「適正」「明るい」「暗い」のような相対指標あるいは照度差をモニタ 4 1 に表示する。そして、ステップ P 1 1 へ進む。

【 0 0 1 7 】

ステップ P 7 では、記録部 6 から読み出した超音波画像に関連付けられた照明状況情報および基準照明情報を記録部 6 から読み出す。

ステップ P 8 では、ステップ P 2 で取り出した基準照明情報と、ステップ P 7 で読み出した照明状況情報および基準照明情報のいずれかを操作者に指定させる。

ステップ P 9 では、ステップ P 1 で検出した現在の照明状況とステップ P 8 で指定された情報とを比較し、現在の照明状況が適正か否かを判定する。

ステップ P 1 0 では、ステップ P 1 で検出した現在の照明状況と、ステップ P 2 で取り出した基準照明情報と、ステップ P 7 で読み出した照明状況情報および基準照明情報と、判定結果とを操作者に報知する。そして、ステップ P 1 1 へ進む。

【 0 0 1 8 】

ステップ P 1 1 では、ステップ P 6 またはステップ P 9 で判定した結果に応じて学習型赤外線リモコン 7 6 1 を駆動し照明装置 L を制御する。そして、処理を終了する。

【 0 0 1 9 】

実施例 1 の超音波診断装置 1 0 0 によれば、適正な照明状況の下で超音波診断装置 1 0 0 を使用できるようになる。また、超音波診断装置 1 0 0 と独立に設置された照明装置 L を操作者がオン / オフしたり調光したりする必要がなくなる。

【 実施例 2 】

【 0 0 2 0 】

実施例 1 の超音波診断装置 1 0 0 から照明制御部 7 6 , 学習型赤外線リモコン 7 6 1 および図 3 のステップ P 1 1 を省略してもよい。

この場合、操作者がモニタ 4 1 の表示を参考にして赤外線リモコン R を操作すれば、適正な照明状況にすることが出来る。

【 実施例 3 】

【 0 0 2 1 】

図 4 は、実施例 3 にかかる超音波診断装置 2 0 0 とそれが設置された室内を示す説明図である。

超音波診断装置 2 0 0 は、天井に設置された照明装置 L の赤外線リモコン R から制御信号を学習しうる学習型赤外線リモコン 7 6 1 と、LCD や CRT の如きモニタ 4 1 とを具備している。

【 0 0 2 2 】

図 5 は、超音波診断装置 2 0 0 の構成を示すブロック図である。

超音波診断装置 2 0 0 は、超音波探触子 1 と、超音波探触子 1 を駆動して被検体内を超音波ビームでスキャンする送受信部 2 と、超音波エコーを基に超音波画像を生成する画像

10

20

30

40

50

生成部 3 と、超音波画像やメッセージをモニタ 4 1 に表示する画像表示部 4 と、操作者が指示やデータを与えるための操作部 5 と、制御部 9 と、学習型赤外線リモコン 9 3 1 とを具備している。

【 0 0 2 3 】

制御部 9 は、画像表示条件に対応して予め設定されている基準照明情報を検索して現在の画像表示条件に適した基準照明情報を取り出す基準照明情報取出部 9 1 と、取り出した基準照明情報を操作者に報知する基準照明情報報知部 9 2 と、基準照明情報に応じて学習型赤外線リモコン 9 3 1 を駆動し照明装置 L を制御する照明制御部 9 3 とを含んでいる。

【 0 0 2 4 】

図 6 は、制御部 9 による照明制御処理を示すフロー図である。この照明制御処理は、操作者の指示により起動される。

ステップ S 1 では、種々の画像表示条件に対応して予め設定してある基準照明情報を検索し、現在の画像表示条件に対応する基準照明情報を取り出す。

ステップ S 2 では、ステップ S 1 で取り出した基準照明情報を操作者に報知する。基準照明情報の報知は、例えば照度や「全光」「調光」「常夜灯」「消灯」のような指標をモニタ 4 1 に表示する。

ステップ S 3 では、ステップ S 1 で取り出した基準照明情報に応じて学習型赤外線リモコン 9 3 1 を駆動し照明装置 L を制御する。そして、処理を終了する。

【 0 0 2 5 】

実施例 3 の超音波診断装置 2 0 0 によれば、適正な照明状況の下で超音波診断装置 2 0 0 を使用できるようになる。また、超音波診断装置 2 0 0 と独立に設置された照明装置 L を操作者がオン/オフしたり調光したりする必要がなくなる。

【実施例 4】

【 0 0 2 6 】

照明状況を段階的にしか調節できない場合は、最も好ましい段階に調節すると共に調節後の照明状況に合わせて画像表示条件を微調整するのが好ましい。

【実施例 5】

【 0 0 2 7 】

照明の調節に加えて、空調装置の調節の指標を超音波診断装置で報知したり、超音波診断装置で空調装置を制御してもよい。

【符号の説明】

【 0 0 2 8 】

7	制御部	
7 1	照明状況検出部	
7 2	照明情報保存部	
7 3	照明情報読出部	
7 4	照明状況判定部	
7 5	照明情報報知部	
7 6	照明制御部	
7 6 1	学習型赤外線リモコン	40
8	光センサ	
9	制御部	
9 1	基準照明情報取出部	
9 2	基準照明情報報知部	
9 3	照明制御部	
1 0 0、2 0 0	超音波診断装置	
L	照明装置	
R	赤外線リモコン	

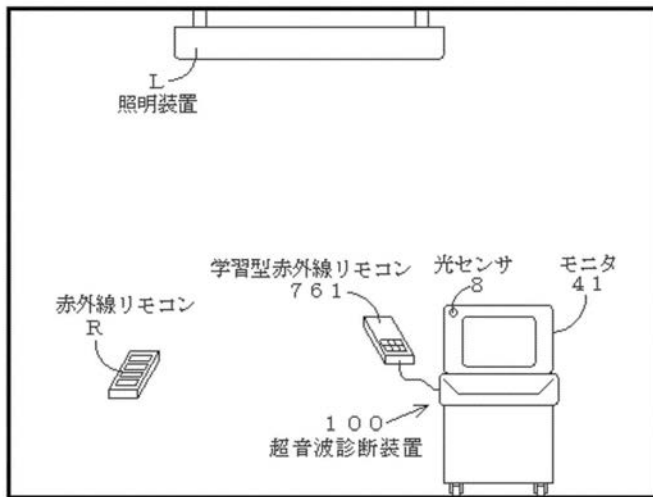
10

20

30

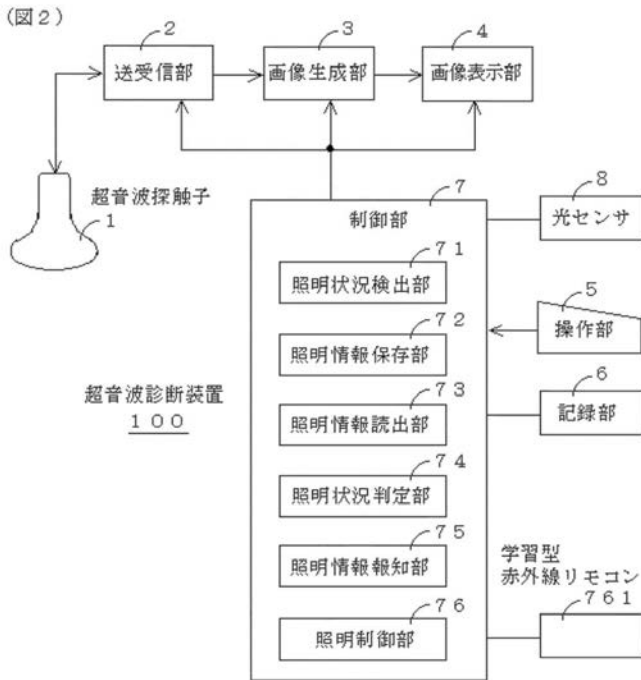
【図1】

(図1)

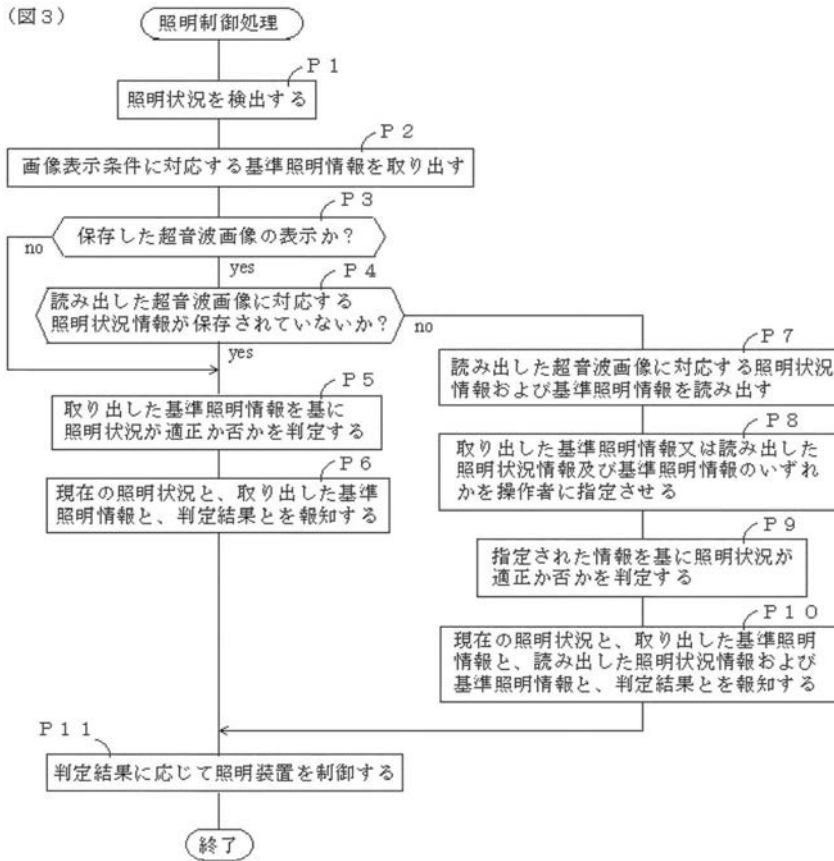


【図2】

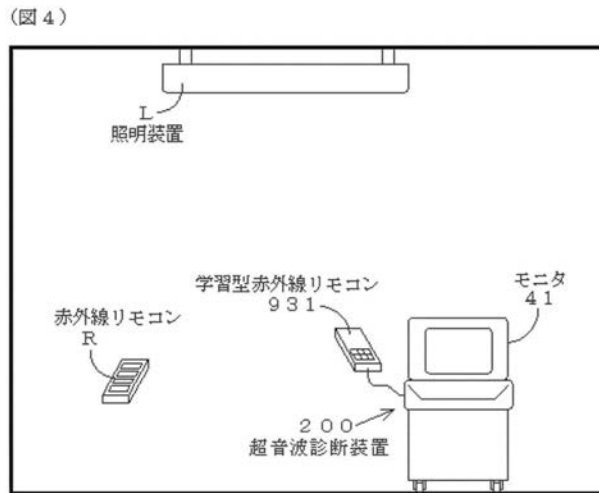
(図2)



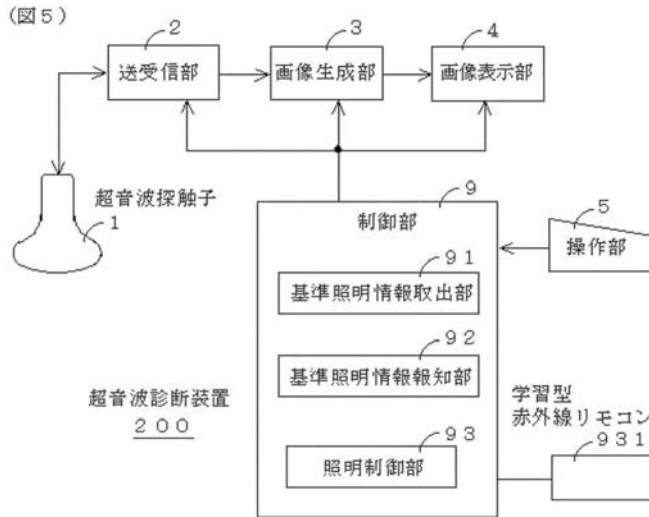
【図3】



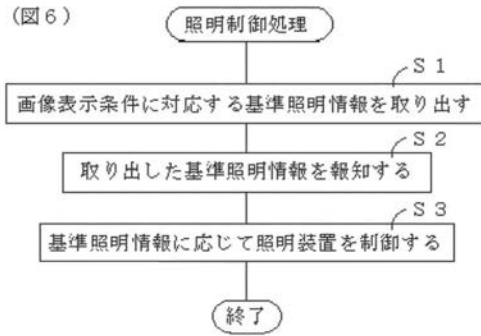
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2006-20777(JP,A)
特表平8-506944(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A61B 8/00

专利名称(译)	超声诊断设备		
公开(公告)号	JP5134118B2	公开(公告)日	2013-01-30
申请号	JP2011176944	申请日	2011-08-12
申请(专利权)人(译)	GE医疗系统环球技术公司有限责任公司		
当前申请(专利权)人(译)	GE医疗系统环球技术公司有限责任公司		
[标]发明人	加藤生		
发明人	加藤生		
IPC分类号	A61B8/00		
FI分类号	A61B8/00		
F-TERM分类号	4C601/EE10 4C601/KK33 4C601/LL09 4C601/LL40		
其他公开文献	JP2011245343A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：能够在适当的光照条件下使用超声诊断设备。照明信息存储单元（72）将操作者存储超声波图像时的照明条件与光传感器（8）相关联，并将照明状态与超声波图像相关联，保存（6）。当操作者调用存储在记录单元（6）中的超声图像时，照明信息读取单元73读出与超声图像相关联地存储的照明状态信息。照明信息通知单元（75）向操作者通知所读取的照明状况信息。参考照明信息可以存储在记录单元（6）中，并且照明信息通知单元（75）可以向操作者通知从记录单元（6）读取的参考照明信息。点域1

